

授業科目	保育実習指導Ⅱ	1単位	選択	演習	2学年前期	担当教員	池田正雄 松浦信二 三沢徳枝 佐藤高博							
授業の概要	① 保育実習Ⅱに関する事前および事後指導を行う。 ② 事前指導においては、保育実習Ⅰで学んだことをもとに、部分実習または責任実習を行うために必要な知識、技術を習得する。 ③ 事後指導においては、学習の振り返りと自己評価をもとに保育士としての専門性を目指す。													
到達目標						学習成果Ⅰ	学習成果Ⅱ	学習成果Ⅲ						
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1、保育実習Ⅱの意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。						◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○
2、実習や既習の教科の内容やその関係性を踏まえ、保育実践力を養う。						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
3、保育の観察、記録および自己評価を通して、保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
4、保育士の専門性と職業倫理観について理解する。						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
5、事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
凡例 ◎：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために特に重要な目標、○：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために重要な目標 査定項目①～⑨はivページ参照														
	主 題	準備学習	本時の学習内容と到達目標				復 習							
1	保育実習Ⅰの振り返り 保育実習Ⅱの意義と 目的	保育実習Ⅰでの経験から得た 反省や目標を踏まえた上で 受講する。	保育実習Ⅰ(保育所)の反省と課題を明確にする。 保育実習Ⅱの意義と目的、流れについて理解する。 手引きを使用し自己評価をもとに教員と面談する				保育実習Ⅱの意義、目的について 復習しておく。 課題 プラムドリル①							
2	子どもの発達について	保育実習指導Ⅰで学んだ子ども の発達について再確認する。 『まるごと BOOK』付録参照	保育実習指導Ⅰで学んだ資料をもとに子どもの発達に ついて再確認する。				子どもの発達について理解を深める。 課題 プラムドリル②							
3	子どもとのかかわり	子どもとのかかわりについて 保育実習Ⅰで学んだこと、指 導を受けたことを整理する。 保育実習Ⅱの内容と目的につ いて確認しておく。	保育実習Ⅰを振り返り、子どもとのかかわりに関する 課題を明確にする。				子どもとのかかわりについて、もう 一度見直し、理解を深める。 課題 プラムドリル③							
4	実習の目標の設定	保育実習Ⅱのねらいを立て る。	保育実習Ⅱの目標を立てる。 個人票を作成する。				自分の実習目標を明確にする。 課題 プラムドリル④							
5	責任実習とは (部分実習、一日実習)	責任実習の指導案の考え方と 立て方について予習してお く。『まるごと BOOK』20～21、 27 ページ参照	責任実習における部分実習、一日実習の目的、内容、 目標、方法などについて理解する。 指導案を立てる時の考え方について理解する。 保育実習Ⅰで作成した部分実習指導案を修正する。				部分実習、一日実習について復習す る。保育実習Ⅰで作成した指導案を 見直す。課題 プラムドリル⑤							
6	指導案と保育実技(1) ～保育内容の題材	責任実習で行いたい保育実技 について構想をまとめる。	責任実習(部分)で使いたい保育技能について学び、 指導案を作成する。 子どもを取り巻く生活に応じた「題材」、年齢に応じた 「題材」を考える。				保育技能(手遊び、リズム体操、 絵本の読み聞かせなど)をよく学ん でおく。課題 プラムドリル⑥							

7	オリエンテーション (全クラス合同)	事前訪問に向けての心構え、身だしなみについて確認する。	学内オリエンテーション 実習の流れを確認し、必要なマナーと守るべきルール、提出物の確認をする。	実習先でのオリエンテーションは、実習1日目と考え、必要なマナーおよびルールを確認すること。
8	指導案と保育実技(2) ～保育指針とねらい	保育所保育指針で示されている5領域の「ねらい」と「内容」を事前に確認しておく。	責任実習(一日)の指導案を作成する。指針で示されている5領域のねらい内容を参考に保育内容の題材についてねらいをたてる。	主活動のねらいの立て方について復習する。 課題 プラムドリル⑦
9	指導案と保育実技(3) ～導入、まとめ、環境構成、つなぎの保育	主活動の導入、終わり方、時間配分、環境構成とつなぎの保育について事前に確認する。	責任実習(一日)の指導案を作成する。主活動の導入や終わり方、時間配分、環境構成、つなぎの保育について理解を深める。	主活動の導入、まとめ、時間配分、環境構成、つなぎの保育について復習をする。 課題: プラムドリル⑧
10	指導案と保育実技(4) ～模擬保育	予想される子どもの活動、実習生の支援と留意事項を再確認しておく。	指導案にもとづいて模擬保育を行い、時間配分、予想される子どもの動きと実習生の援助について確認する。	模擬保育で見出した反省点を確認する。 課題: プラムドリル⑨
11	指導案と保育実技(5) ～模擬保育	予想される子どもの活動、実習生の支援と留意事項を再確認しておく。	指導案にもとづいて模擬保育を行い、時間配分、予想される子どもの動きと実習生の援助について確認する。	模擬保育で見出した反省点を確認する。 課題: プラムドリル⑩
12	指導案と保育実技(6) ～模擬保育	予想される子どもの活動、実習生の支援と留意事項を再確認しておく。	指導案にもとづいて模擬保育を行い、時間配分、予想される子どもの動きと実習生の援助について確認する。	模擬保育で見出した反省点を確認する。
13	実習計画の立案	事前訪問で確認したことをまとめておく。	実習の目標と指導案の内容を踏まえ、10日間の実習課題を作成する。	実習計画を見直す。
14	マナーと所作について 実習におけるトラブル シューティング	保育実習Iで学んだマナーについて復習する。事前訪問で確認したことをまとめておく。	実習前により具体的なマナー、所作について理解を深める。(ロールプレイ含む)トラブル例から、実習を通して必要な心構えについて考察する。	実習に必要なマナーや所作について理解を深める。 実習終了後の確認事項を見直す。
15	実習の振り返り	実習日誌を読み直してくる。	保育実習IIの反省と自己評価をする。 実習報告書(実習事後アンケート)を作成し、感想文を書く。保育所からの評価票をもとに、保育実習IIの反省と自己評価をする。	実習の手引きの該当箇所を記入する。
成績評価	授業への取り組み(30%) 課題・書類等の提出(40%) 手引き・事後指導への取り組み(30%) 合計 100%			
教員からのコメント	① 1年次に学んだことを土台にして、実りある実習ができるように学習を進めてください。 ② 特に日誌や指導案の書き方を身につけてください。 ③ 課題提出があります。期限を守って提出してください。			
教科書	書名 保育所&幼稚園実習の記録と指導案まるごとBOOK 著者 監修 横山洋子・ほいくる 発行所 KADOKAWA	推薦 図書	書名 平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 発行所 チャイルド本社 他にも必要に応じて随時紹介する。	

